

## I 予算の規模

(単位:千円)

区 分	平成30年度	平成29年度	増 減 額	増 減 率
一般会計予算規模	63,520,000	62,780,000	740,000	1.2%

一般会計の予算規模は、635億2000万円で、前年度当初予算(627億8000万円)と比較すると、7億4000万円の増(+1.2%)となっています。

### — 本市の財政事情と平成30年度予算編成 —

市財政の状況は、継続的な行財政改革の推進などにより、市債残高の減少や基金の増加などストック面で一定の改善がある一方で、財政構造の弾力性を判断する経常収支比率(平成28年度決算)は、普通交付税の減少などにより94.2%と高まり、また、今後、少子高齢化による社会福祉関係経費の増加や人口減少に伴う市税収入の伸び悩み等を考慮すると、厳しい財政状況が続くものと予想しています。

平成30年度は、「第四次宇部市総合計画後期実行計画」がスタートする年となります。市制100周年という大きな節目を目標年次とする この後期実行計画においては、中期実行計画の検証や、市民からの提案等を踏まえながら、社会経済環境の変化に的確に対応することに留意して策定し、今後チャレンジする5つのまちづくりのテーマとして、「産業力強化・イノベーション創出のまち」、「生きる力を育み、子どもの未来が輝くまち」、「健幸長寿のまち」、「共に創る魅力・にぎわいあふれるまち」、「安心・安全で、快適に暮らせるまち」を掲げています。

計画の初年度となる平成30年度においては、厳しい財政状況の下、テーマとして掲げたまちづくりの目標達成に向けて、着実な一歩を踏み出すための予算案を編成したものです。

これらの予算化にあたっては、「行財政改革加速化プラン」の積極的な推進や国の補助金、公共施設等適正管理推進事業債等に加え、基金の有効活用などにより財源を確保しました。

その結果、当初予算の規模としては、過去最大であった平成26年度に次ぐ635億2千万円を計上し、地域経済への波及効果が期待される投資的経費についても、平成29年度を約8億円上回る58億円を計上しました。

一方で、市債残高は、29年度末から約4億円減少させ、また、財政調整基金残高も28億円を留保できる見込みであり、財政の健全化基調を堅持しました。

以上のような考えの下に編成した本予算の執行を通して、地域経済の成長力を確保するとともに、市民福祉の向上が図れるよう、市民をはじめとした多様な主体との連携・共創を高めながら、オール宇部市で「元気都市うべ」の実現を推進していきます。